中部大学民族資料博物館

年報　第 3 号

2013

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

中部大学民族資料博物館
2013　年報

巻頭言

「博物館相当施設」指定を受けた後にも、当館には改善計画をすすめ、よりよい施設環境に内実ともに行っていかなければならない。その初年度としての平成 25 年度は、資料の保存管理に関して一から始めることとした。前年冬から正式に温湿度のデータ計測をはじめ、まずは正確に施設状況を把握し、その後に実情に応じてさまざまな方策を工夫する。これは当館が美術博物館としての専門的な建築構造空間ではなく、図書館との共同空間に位置する場所にあるからで、展示や保存環境の維持管理の方法自体の意味においても大学博物館としてのあり方を模索していく必要がある。催事企画によるテーマの発信だけではなく、教材となる資料を大切に保存し紹介していく役割を同時に考えていく重要性も実感している。

こうした課題を持ちながら、一方で新たな展示や講演・講座等の年間行事をすすめていくこと、また旧蔵資料に関する解説情報の収集等による充実化を地道にすすめていく日々においては、特に広報活動や催事の実施については各部署、各教職員の応援なくしては回を重ねる毎の増員・定員超にはならないであろう。館の認知度があがっている嬉しい悲鳴でもある。

しかし、それゆえに開館三年目に継続して行っている催事等について、テーマ提案や内容の工夫を織り込んでいくことで、形骸化に陥ることを避けて、館が日々少しでも成長を試みている様子を行動で示していきたい。この点では、催事毎にいただくアンケート集計結果を真摯に受け止め参考としていきたい。

そこで今年度の工夫としては、次の試みをした点に触れておく。企画テーマとして、従来の民族学系のテーマ以外に、当館の柱の一つである「素材研究」を秋季展示とその関連講演の場を別に設定し、特に制作者の観点を実験的パネル制作や材料の特質を紹介する点と、さらに材料の現物を直接的に眼にし、触れることのできる展示および講演内容（実演の実施や現物の披露など）を企画し提供することとした。この企画内容は、当館が毎年開催している一般対象の実技制作講座「特別講座（古典絵画）」にも関連しており、伝統文化を作品制作の域に高めたレベルでの実技を通じて理解する教育活動実践の試みの一つである。大学博物館としてのレベルの維持向上を見据えたうえで、今後は、同様の内容を一般のみならず学生や児童の年齢層や学習の進行度に応じて、歴史や技術をどのように解説紹介していくことができるのか、新たな教材作りにもつなげていきたいと考えている。今年度はその下地作りの第一歩となったと自負している。

こうした具体的な試みを通じて、広くは民族文化、世界のさまざまな遺産への知識をより実感を込めて深めていくことができるような手助けを当館の活動のなかで行っていきたい。

2014 年　6 月　中部大学民族資料博物館

中部大学民族資料博物館
年報
2013

目次

巻頭言（平成 25 年度　博物館事業概要）

1　組織・施設

規程 …… 2
博物館の組織・人員 …… 3
運営委員会 …… 4
収蔵資料点数 …… 5
施設整備概要 …… 6

2　博物館活動報告

開館日数・入館者統計 …… 8
団体見学 …… 9
会議・出張 …… 13
展示・講演・講座 …… 15
出版事業 …… 33
資料収集・保存等 …… 34
調査研究事業 …… 35
教育普及に関する活動 …… 37
渉外 …… 41
広報活動 …… 42

（別表）　民族資料博物館　平成 25 年度展示・催事一覧 …… 44

1　組織・施設

規程（細則等）

名称：中部大学民族資料博物館管理運営細則の一部改訂（4 月 1 日）

事項：事前に申し出て申請書を提出することで、休館日においても特別に見学を受け入れる。
（博物館の開館日を表示したカレンダーを学校教育施設に配布するにあたり、
上記の件を周知する）

名称：寄贈資料・寄贈図書の取扱い書類と評価について（11 月 28 日）

事項：寄贈資料、および寄贈図書の取扱い書類と評価額の設定に関するルールと様式の制定

民族資料博物館の組織・人員

館長　和﨑　春日（国際関係学部長兼務、国際関係学部教授）
副館長　宇治谷　恵（准専任事務員・次長、学芸員兼務）
　　原田　千夏子（専任事務員・学芸員兼務）

　　猪塚　里香（契約事務補助員　H24 年 7 月～）
　　中川　智美（契約事務補助員　H25 年 2 月～）

　　佐藤　尚子（H24 年 10 月～）
　　安藤　佳子（H24 年 10 月～）

運営委員会（平成 25 年度）

民族資料博物館運営委員会

アドヴァイザー	学園長	大西　良三
委員長	民族資料博物館長	和﨑　春日
委員	民族資料博物館副館長	宇治谷　恵
	国際文化学科　教授	杓谷　茂樹
	国際文化学科　教授	中山　紀子
	国際文化学科　准教授	財部　香枝
	国際文化学科　准教授	中野　智章
	中国語中国関係学科　教授	澁谷　鎮明
	中国語中国関係学科　講師	宗　　婷婷
	人文学部共通教育学科　教授	千葉　成夫
	人文学部コミュニケーション学科 教授	前田　富士男
	情報工学科　准教授	鈴木　裕利
	幼児教育学科	釆睪　真澄
	管財部長	井畑　耕三
	管財部次長	吉崎　真琴
	国際関係学部事務長	松村　悟
外部専門委員	川上　實　（元愛知県立芸術大学学長、同大学名誉教授）	
	石毛　直道　（元国立民族学博物館館長、同名誉教授）	
	下川　辰彦　（日本美術院特待・国宝法隆寺金堂模写事業有実績）	
事務局	民族資料博物館	原田　千夏子

収蔵資料点数一覧　　2014年3月31日現在

地　　域		点数	計
シルクロード	コイン	616	719
	その他	103	
オセアニア	オセアニア	465	465　(76)
アジア	西アジア	65	860　(56)
	東アジア	524	
	東南アジア	198	
	南アジア	73	
アメリカ	アメリカ	258	258　(24)
アフリカ	アフリカ	99	99　(8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	157	157　(6)
合　　計			2,558　(170)

※内訳カウント法の変更により一部昨年度に比して減少している地域あり。

(　)は、写真・映像資料数。

施設整備概要

「博物館相当施設」の指定（2013 年 2 月 5 日付公示）とともに、改善計画の進捗状況を今後 3 年間にわたり愛知県に報告する。平成 25 年度の第 1 回経過報告（10 月 31 日）にあたり、施設整備に関しては次の事項を報告した。

＜資料の保存環境の整備について＞

1　LED 照明への入れ替え　※展示ケース内、および展示物スポットライト（2013 年 2 月）
2　外光の入る展示ケース対応として紫外線カットフィルム（2013 年 1 月　※管財部）
3　耐震対応
　・収蔵庫の棚設置時に天板接合、棚の落下防止ベルト設置（2012 年 10 月）
　・ガラス製の展示ケース対応として飛散防止フィルム（2013 年 2～3 月）
　・転倒防止シート（2012 年 9 月）
　・大型展示ケースの壁留め、展示台のキャスター受け設置（2013 年 2～3 月）
　・テグス対応（一部）（2013 年 5 月）

4　空調対策
　・温湿度計測機の設置（2012 年 11 月）※現在計測、データ収集、分析中。
　　→設置後の半年期間の経過分析し、愛知県美術館の指導を受ける（7 月）

　・ガス検知検査（2013 年 4～5 月）
　　→検査結果を経て、愛知県美術館の指導を受ける（7 月）

5　防虫管理対応
　・生物調査（2013 年 4～5 月）
　　→検査結果を経て、愛知県美術館の指導を受ける（7 月）

　　※主な指導事項
　　新規受入資料の保存環境の工夫について
　　照明の検証について（防虫面からの採光量の検証）
　　展示室、および収蔵庫の図書館との境界線の対応
　　学芸員兼務の事務員について、専門的な研修の受講の必要性について

　　→収蔵庫への入室ルール、機材観察ルールの設定（スタッフ間での共有）
　　→窓、ブラインドの内側に暗幕の設置　（10 月 21 日）※管財部
　　→図書館との境界扉下 4 ヶ所へ隙間ふさぎのためのピンチブロックの設置（10 月 30 日）
　　※管財部

その他
　大学博物館における催事の学内外への周知工夫について
　資料解説のための紹介方法、および情報収集の進行状況
　収蔵管理のデータベース化計画の進行状況

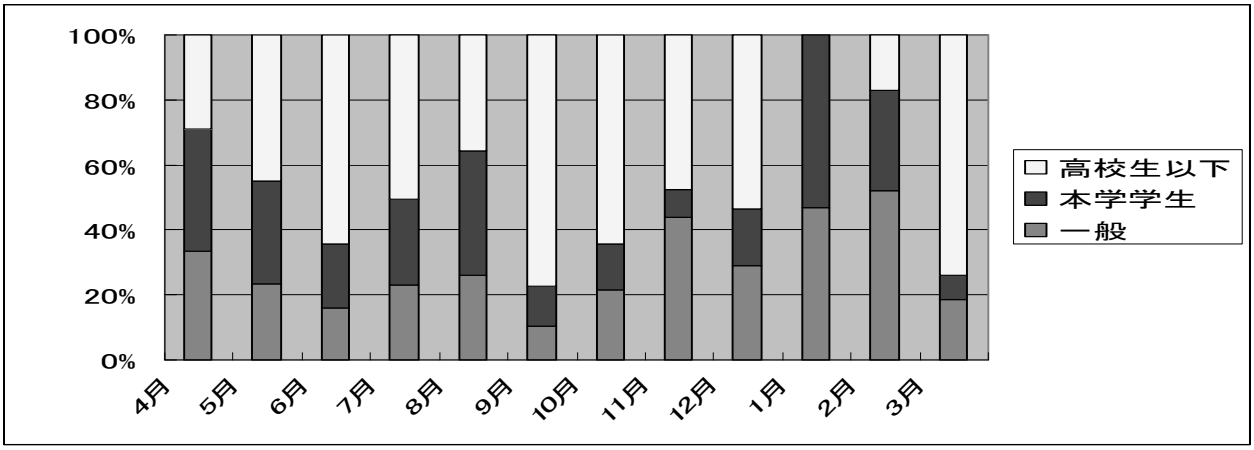
２　博物館活動報告

開館日数・入館者統計

（平成 25 年度　入館者数　月別表）

月	2013 年度			（参考:2012 年度）	
	開館日数	入館者数	備　　考　（ 主な出来事･行事 ）	開館日数	入館者数
4 月	24	497	特別講座作品展示･講評会(15 日)(展示～12 日)、春のオープンキャンパス(20 日)、高校生による大学見学(2 件)、入学式	21	406
5 月	21	574	春季展示(～8/1)、春季連続講演(15 日)、父母との集い(11 日)、授業利用、高校生･他大学による大学見学(8 件)	20	625
6 月	21	797	春季連続講演(5 日)、父母との集い(15 日)、高校生による大学見学(12 件)	23	464
7 月	24	585	夏季展示(～8/6)、国際関係学部オープンキャンパス(6 日)、高校生による大学見学(7 件)	22	432
8 月	9	550	夏のオープンキャパス(4～6 日)、協力行事 3 件(4、4～6、29 日) 高校生による大学見学(2 件)	16	527
9 月	15	229	中学生･高校生による大学見学(4 件)、日本会計研究学会(4～6 日)	20	236
10 月	24	980	秋季展示(～12/18)、特別講演(11 日)、秋のオープンキャンパス(19 日)、高校生による大学見学(9 件)	24	932
11 月	19	744	特別講演(8 日)、父母との集い(9 日、10 日)、中学生･高校生による大学見学(9 件)	22	767
12 月	16	391	秋季連続講演(2 日、13 日)、地域自治体生涯学習講座(13 日)、小学生･高校生による大学見学(6 件)	16	253
1 月	17	141	一般見学、授業における利用等	18	138
2 月	18	100	協力行事小学生スケッチ展示(～3/15)、高校生による大学見学(1 件)	16	66
3 月	24	624	特別講座作品展示･講評会(20 日)、高校生による大学見学(4 件)、卒業式	16	109
計	**232**	**6,212**		234	4,955

（平成 25 年度　入館者数　月別対照表）グラフ



平成25年度の開館日は、232日、入館者数の合計は6,212名である。この他、学内の別会場における催事（春秋季の連続講演、特別講演：計7回・うち1回は外部施設共同開催）の参加者数計480名をあわせると、当館の平成25年度の催事参加者は合計6,692名となる。例年どおり、大学催事への参加を積極的に試み、土日祝日における催事開催時は特別に開館して対応をとった。特別開館した催事は次のとおりである。

平成25年度　　大学催事等で、土日祝日・および資料整理の閉館期間に特別開館対応をした主な催事

H25年度合計件数　24件

・	4月 6日（土）	平成24年度特別講座発表展示	（ 3名）
・	4月20日（土）	春のオープンキャンパス	(137名)
・	5月11日（土）	父母との集い	（ 5名）
・	6月15日（土）	父母との集い	（10名）
・	7月 6日（土）	国際関係学部オープンキャンパス	（52名）
・	8月 4日（日）	夏のオープンキャンパス	(209名)
・	8月23日（金）	中部大学フェアー	（ 4名）
・	8月28日（水）	大府東高等学校ＰＴＡ見学	（30名）
・	8月29日（木）	生命健康学部チャレンジチルドレン	（44名）
・	8月29日（木）	岐阜総合学園高等学校見学	（59名）
・	9月 6日（木）	日本会計研究学会	（ 3名）
・	9月12日（木）	瑞浪高等学校見学	（37名）
・	9月14日（土）	春日丘中学主催　中学生見学	（91名）
・	9月14日（土）	いなべ総合学園ＰＴＡ見学	（24名）
・	10月19日（土）	秋のオープンキャンパス	（91名）
・	11月 9日（土）	父母との集い	(100名)
・	11月 9日（土）	中部第一高等学校主催　中学生見学	（73名）
・	11月10日（日）	父母との集い	(110名)
・	11月16日（土）	春日丘高等学校ＰＴＡ見学	（84名）
・	2月22日（土）	北城小学校民族資料スケッチ展	（ 6名）
・	3月 1日（土）	北城小学校民族資料スケッチ展	（ 1名）
・	3月 8日（土）	北城小学校民族資料スケッチ展	（ 1名）
・	3月15日（土）	北城小学校民族資料スケッチ展	（ 6名）
・	3月22日（土）	卒業式	（ 3名）

＜団体見学等＞

入館者数の内訳では、高校の大学施設見学としての団体見学である。受入件数は、70件、見学総数は合計3,258名となり、昨年度に比べ約1,200名余りの増加となった。

この他、地域の学内学生が主体となって行う児童対象や、障がい学生対象とした体験型の見学の開催、市民グ

ループの講座内での見学、高校と大学の連携授業内での見学等において、見学授業のスタイルで展示室が利用される件数が増えた。大学博物館としての認知度をあげ、地域に開かれた教育施設として活動していきたい。

平成25年度　高校見学受入状況

H25年度　高校見学受入状況：年間合計　70件　3,258名　（参考　H24年度　60件、2,029名）

内訳：

（上半期）

	来館日	学校名	見学者数	備考
1	4月17日	高校生	4	
2	4月20日	春のオープンキャンパス　高校生	137	
3	4月29日	高校生	3	
4	5月10日	岐阜県立中津商業高等学校	27	
5	5月14日	岐阜県　麗澤瑞浪高等学校	13	
6	5月22日	岐阜県立岐南工業高等学校	20	
7	5月24日	岐阜県立坂下高等学校	27	
8	5月28日	岐阜県立大垣工業高等学校	41	
9	5月30日	愛知県　至学館高等学校	61	
10	5月30日	愛知県立安城南高等学校	51	
11	5月31日	愛知県　名古屋造形大学	19	
12	6月3日	岐阜県立郡上高等学校	40	
13	6月6日	愛知県立足助高等学校	97	
14	6月11日	長野県立赤穂高等学校	43	
15	6月12日	岐阜県立恵那南高等学校	40	
16	6月13日	愛知県立南陽高等学校	43	
17	6月13日	岐阜県立大垣西高等学校	56	ＰＴＡ
18	6月18日	静岡県立三ケ日高等学校	22	
19	6月19日	三重県立亀山高等学校	47	
20	6月21日	長野県　下諏訪向陽高等学校	42	
21	6月24日	高校生	2	
22	6月26日	愛知県立長久手高等学校	38	ＰＴＡ
23	6月28日	岐阜県立池田高等学校	43	ＰＴＡ
24	7月2日	愛知県立翔洋高等学校	33	
25	7月3日	三重県　海星高等学校	26	
26	7月6日	国際関係学部オープンキャンパス　高校生	15	
27	7月9日	岐阜県　関市立関商工高等学校	43	
28	7月10日	愛知県　豊川高等学校	44	
29	7月12日	愛知県立御津高等学校	42	
30	7月17日	愛知県立春日井商業高等学校	88	

31	7 月 18 日	高校生	4	
32	8 月 4 日	夏のオープンキャンパス	16	子供、高校生、大学生
33	8 月 5 日	夏のオープンキャンパス　高校生	72	
34	8 月 6 日	夏のオープンキャンパス　高校生	25	
35	8 月 28 日	愛知県立大府東高等学校	25	ＰＴＡ
36	8 月 29 日	岐阜県立総合学園高等学校	59	
37	9 月 12 日	岐阜県立瑞浪高等学校	37	
38	9 月 14 日	愛知県　春日丘中学校主催	91	中学生
39	9 月 14 日	三重県立いなべ総合学園高等学校	24	ＰＴＡ
40	9 月 24 日	愛知県　名古屋国際中学校・高等学校	25	ＰＴＡ
			1,585	

（下半期）

1	10 月 1 日	愛知県立岩津高等学校	70	
2	10 月 8 日	愛知県立常滑高等学校	36	ＰＴＡ
3	10 月 8 日	長野県　岡谷工業高等学校	34	
4	10 月 18 日	愛知県立犬山高等学校	43	
5	10 月 19 日	秋のオープンキャンパス　高校生	91	
6	10 月 23 日	岐阜県立東濃高等学校	22	
7	10 月 23 日	愛知県立一色高等学校	82	
8	10 月 28 日	愛知県　春日丘高等学校　国際コース	88	
9	10 月 29 日	岐阜県立関有知高等学校	74	
10	10 月 31 日	愛知県立犬山南高等学校	91	
11	11 月 6 日	三重県立相可高等学校	42	
12	11 月 9 日	中部第一高校主催　中学生と父兄	73	
13	11 月 13 日	愛知県立日進高等学校	18	
14	11 月 13 日	三重県立桑名北高等学校	42	
15	11 月 14 日	愛知県立春日井西高等学校	27	
16	11 月 15 日	愛知県立岩津高等学校	28	
17	11 月 15 日	愛知県立松平高等学校	28	
18	11 月 16 日	愛知県　春日丘高等学校	84	ＰＴＡ
19	11 月 29 日	愛知県　名古屋造形大学	13	
20	12 月 4 日	岐阜県立羽島高等学校	43	
21	12 月 6 日	岐阜県立八百津高等学校	15	
22	12 月 13 日	岐阜県立大垣工業高等学校	34	
23	12 月 17 日	春日井市立北城小学校　ワークショップ	45	
24	12 月 17 日	春日井市立北城小学校　別グループワークショップ	40	
25	12 月 17 日	静岡県立浜北西高等学校	32	
26	2 月 25 日	岐阜県立岐阜農林高等学校	17	
27	3 月 4 日	愛知県　中部大学第一高等学校	142	

28	3 月 11 日	愛知県　春日丘高等学校	225	
29	3 月 18 日	愛知県立惟信高等学校	68	
30	3 月 26 日	文系志望高校生	26	
			1, 673	

平成 25 年度　その他のグループ見学受入状況

・あつまれ！わんぱく隊（教育フレンドシップ活動）　夏季催事（展示室　体験型見学）168 名
・チャレンジドチルドレンのための小さな冒険プログラム 2013（展示室　体験型見学）　54 名
・長久手市生涯学習講座「お散歩カメラ塾」（展示室利用講座実施）　6 名
・春日井市立北城小学校（展示室　体験型見学）　85 名

＜申請関連＞

2013 年 7 月 6 日　　愛知県美術館　保存専門学芸員による施設視察指導
2013 年 10 月 31 日　愛知県教育委員会　生涯学習課　視察面談
（「博物館相当施設」指定後の改善計画進捗状況報告　第一回）

会議・出張

会議

運営委員会

第 1 回（6 月 13 日）

議事　1　新委員紹介

　　2　博物館相当施設指定後の改善計画について

　　3　平成 24 年度　決算報告

　　4　催事報告・催事計画

　　5　データベース計画について

　　6　管理運営細則の改訂について

　　7　今後の検討事項

第 2 回（10 月 30 日）

議事　1　下半期行事予定

　　2　ニュースレター5 号レイアウトについて

　　3　寄贈資料（図書含む）の受入手続き、および資料評価について

　　4　平成 26 年度　春季企画展示について

外部専門委員会

第 1 回（11 月 27 日）

議事　大学博物館のあり方について

　　報告事項

　　・平成 25 年度　年間行事計画

　　・博物館相当施設指定に係る改善計画の進捗状況について

　　・中長期計画について

出張

4 月 5 日　催事打合せ（京都市）（宇治谷）

4 月 25 日　打合せ（浜松楽器博物館）（宇治谷）

5 月 19 日　催事打合せ（兵庫県）（宇治谷）

5 月 31 日　催事打合せ・アートドキュメンテーション学会参加（金沢美術工芸大学）（原田）

7 月 4 日　寄贈資料打合せ（県内）（宇治谷）

7 月 4 日　　学外展示催事打合せ（県内）（原田）
7 月 11 日　　データベース視察（京都工芸繊維大学）（原田）
7 月 13 日　　データベース視察（豊橋市美術博物館）（原田）
8 月 3 日　　学外催事取材（市内）（原田）
8 月 10 日～11 日　資料返却（兵庫県・京都市）（宇治谷）
9 月 17 日　　打合せ（京都市・大阪府吹田市）（宇治谷）
10 月 5 日　　シンポジウム出席（県内）（原田）
10 月 25～26 日　全国大学博物館学講座協議会西日本部会出席（九州産業大学）（宇治谷）
11 月 20 日　催事打合せ（立教大学）（宇治谷）
11 月 30 日　宗次ホールロビー展示出展（県内）（原田）
12 月 18 日～20 日　第 3 回文化財 IPM コーディネータ資格取得講習会出席
（九州国立博物館）（原田）
12 月 9 日　　寄贈資料打合せ（山梨県）（宇治谷）
2 月 25 日　　愛知県博物館協会　調査・研究部門研修会出席（徳川美術館）（原田）

展示・講演・講座

・常設展示

展示資料のほか、民族衣装と民族楽器の体験コーナーの配置場所の一部を広く空間をとることができる場所に移動するとともに、衣装の特徴等の解説表示を設置し、高校等の団体見学時の対応に工夫するよう試みた。

・企画催事１（展示）

春季は、外部機関企画による絨毯関連の展示「海のシルクロードと手織絨毯展」を実施。展示資料は関連の生産地で織工芸制作者、および個人所有者より借用。

夏季は、所蔵資料のうち、テーマを決めて紹介する常設コレクション展示「仮面と物語」を実施。当館の地域研究エリアの各地域にみられる仮面について、それぞれの用途や歴史的背景をふまえて、また民話や神話における世界観との関係性も含めて鑑賞方法を考察。

秋季は、「素材研究」をテーマに館発足以前からすすめてきた他大学間との共同研究活動成果をもとに、日本画の顔料や染料等の重ね塗りの表現効果を天然材と現代材の比較検証をする目的で、実際の和紙仕立てパネル 10 枚に色別に鑑賞できる展示資料を新規に制作。材料の原点を知る機会が希少になった現代にこそ必要な提案として企画。

冬季から翌年春季にかけては、一般対象の実技講座「特別講座」（古典絵画技法に関連した絵画制作）の受講生の制作作品の発表展示を実施。講座開講から三周年記念として、これまでに制作した作品もあわせて展示することで、絹絵、板絵、日本画という三種の基底材の異なる作品制作の過程を展示空間全体で把握できる内容。

・企画催事２（講演）

主要催事の春季と秋季の展示期間には、それぞれ関連するテーマでの連続講演を企画している。今年度は、館の収蔵資料紹介のために、春季と秋季に民族資料関連として連続講演「海のシルクロード」と「フィールドワークの現場から　地域文化と民族資料」を企画。主に文化人類学、民族学の研究者らによる文化講演を計 5 名により実施。春季の第 3 回目にあたる講演は、学外の研究グループ企画による春日井市内催事に共同参加として学外施設にて公開実施し多くの聴衆に参加いただいた。

中間期間の秋季展示期間には、特別に名のとおり「特別講演」と題して展示関連テーマ「素材研究」についての 2 回にわたる連続講演を企画。この特別講演では講演だけではなく、伝統文化に関連する箔や胡粉、顔料について、古来の製造方法を守る製造関連施設関係者により、技術や歴史に関する調査データによる解説や、材料の現物に触れる体験の時間を設け、直接触れる機会の少ない天然材料を眼にする機会として好評を得た。

・企画催事３（講座）

一般対象の実技講座（特別講座(古典絵画講座)を実施。

博物館における調査研究事業の一環として開館当初から開講している催事で、毎年受講希望者が定員を上回り好評を得ている。講座開講から三年目として、毎年制作する基底材の種類をかえて企画してきた。一年目に絹絵、二年目に板絵、三年目にあたる今年度は、日本画（紙本）を加え、三種の異なる基底材による表現を一つの教室内で受講生各自の選択によって自由に制作できる環境とした。これは古典絵画と現代作品の両方にわたる研究実績をもつ指導講師によって実現している当館ならではの特色を打ち出した企画の一つである。長期にわたり日本画制作の経験を持つ受講生も多数おり、下地作りや画面構成の段階にじっくりと時間をかけ、綿密な制作計画を組み立てて制作に挑む熱心な姿勢が多い雰囲気であった。その成果は年度末から翌年度始めにわたって行う発表展示に如実に表れている。

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日間の展示・催事は次のとおりである（3 月展示については 4 月までの展示期間を含む）。

・展示

催事名：春季企画展示「海のシルクロードと手織り絨毯展」（―波濤を越えて、伝来した美しい手織り絨毯に秘められた知られざる歴史を巡る―）

期間：2013 年 5 月 29 日（水）～8 月 1 日（木）

会場：民族資料博物館　多目的室、図書館１Ｆエントランス展示

内容：赤穂段通に関する織物関連資料について、外部借用資料の展示と歴史解説

企画制作：東西美術交流研究センター（神戸市）

担当：宇治谷

入館者数：1,599 名（一般、教職員、大学生）

民族資料博物館の多目的室では、学内外の民族資料に関する研究の成果を特定のテーマをもとに総合的及び体系的に紹介する企画展示を年に数回開催している。平成 25 年（2013 年）春に開催の企画展示「海のシルクロードと絨毯」に展示された絨毯は、正倉院の御物や京都の祇園祭の山鉾（山車）を飾る懸装品にも見られるものであり、大航海時代の幕開けとともに陸や海のシルクロードを通じてわが国と海外との交流を物語る貴重な資料でもある。この絨毯が、わが国で織りはじめられたのは 17 世紀末に九州の肥前鍋島が最初であ

り、その後、近畿の堺や赤穂でも織り始められた。赤穂緞通（絨毯）は嘉永 2 年（1849 年）に中国の絨毯に見せられた「小島なか」という一婦人によって織り始められ、近畿地方を中心に各地に供給されていったが、現在は伝統工芸としてわずかに生産されるのみあるが、地域振興のひとつとして、赤穂毯通を地域の産品として発展させようとの動きもある。この展示では、海のシルクロードと絨毯を第一のテーマとして、南蛮貿易と祇園祭りの絨毯、欧州の絵画に見られる絨毯を紹介した。第二のテーマとして、赤穂緞通とペルシャを中心とするシルクロードの絨毯を比較することで、織の技法や染色がどのように影響を受けたかを紹介することとした。大航海時代の幕開けとともに伝来した、欧州やペルシャの手織り絨毯の技術や文様が、どのようなルートを辿って、わが国にもたらされ、受け入れられ、その後、日本の風土にあう敷物として変容してきたのかを立体的に親しみやすく展示した。

春季展示

展示を開催するにあたり、祇園祭り山鉾連合会理事長吉田孝次郎氏、赤穂氏緞通小屋みさき・井関京子氏、はじめ多くの方々のご協力を得ましたことに深く感謝する。(宇治谷)

春季展示チラシ

催事名：夏季常設コレクション展示「仮面と物語」

期間：2013 年 7 月 9 日（火）～8 月 6 日（火）
会場：民族資料博物館　常設展示内特設コーナー
内容：所蔵資料のうち各地域の仮面をとりあげ、その制作背景となる民話や神話の表現世界や民族の歴史、祭礼や演劇等の文化の事例を調べ解説や図を加えながら、仮面に託されてきたいくつかの役割を考察する。
企画制作担当：原田
入館者数：861 名（一般、教職員、大学生）

夏季展示

今年の夏のテーマ展示は、収蔵資料のうち各

地域の仮面をとりあげ、その特徴を主に３つの分類によって解説パネルや参考図、写真を用いて紹介した。

仮面は、各国にさまざまな祭礼に用いられ、それぞれの国の信仰や歴史を受容してきた民族の姿を表している。祖先の霊魂や目に見えない生命力を象徴するため、広大な宇宙に人間を守護し存在する神々の世界を示す演劇で表すため、他民族との融合によって悲劇的な歴史を受入れながら、強く逞しく行き続ける生活を風刺した民話を祭りで表すため、などである。しかし大きく概観すると、仮面は民族という共同体の絆を強める祭りにおいて、過去、現在、未来を包括する時空を超越した存在性、神や英雄、精霊たちを再現するための演出の道具であったことがわかり、つまり人間の普遍的な表現意欲に関わるかたちといえるのだろう。こうした特徴について、次に、児童から中学生、高校生、大学生へと解説する場合に、どのように工夫して教材を作成していくか、今後の課題である。

（原田）

夏季展示チラシ

催事名：秋季企画展示「素材研究展示　古典と現代の比較
　　顔料と染料における日本画の新たな表現」
期間：2013 年 10 月 8 日（火）～12 月 18 日（水）
会場：民族資料博物館　多目的室、図書館１Ｆエントランス展示
内容：日本画の顔料と染料の天然材と現代加工品との表現効果の違いを実際に和紙仕立てのパネル画面に色別の塗り重ねの工程を制作。
　　10 枚の実験パネルとその制作工程についての解説、あわせて参考として、常設展示作品（日本画、壁画模写各１）と中部大学蔵の模写（絵巻物、扇面図）3 点についての素材の観点からの解説パネルを展示。
企画制作担当：下川（外部専門委員・共同研究者）、原田
入館者数：1,874 名（一般、教職員、大学生）

「素材研究」を館の活動テーマの一つにとりあげている当館では、天然素材の材料を用いた顔料や染料の特徴や性質について調査研究している。今回の展示では、日本画の顔料

と染料に着目し、実際の和紙を貼った画面に色調の特徴を示すパネルを色別に新規に作成したものを複数展示紹介した。本展示は、「素材」を通じて実物に近づく体験と考察を鑑賞の出発点として考えていきたいとする館の教育研究活動の一端として試みた。展示パネル制作にあたっては、法隆寺金堂模写事業に参加した経歴をもつ日本画家である下川辰彦氏の協力を得て実現した。

パネル制作の目的は、天然材料による色調の特徴を示すために、実際の絵画作品に用いられる重ね塗りの状態でわかりやすく示す点である。さらに、比較として現代の加工材によって作られた顔料の場合も制作し、色別に両者を並べ合わせて展示することで、天然材の持つ秀でた効果を視覚的に提示した。

映像や複製の技術が発達した現代生活において、私たち一般は、天然材の持つ秀でた色調を実際の生の実物で鑑賞する機会は極めて少ないといっていい。かつて、国風文化が隆盛した平安時代後期には、現代で国宝、重要文化財と指定されている数多くの優れた作品が生み出されたが、その多くは美術博物館の暗い照明の下で特別展示の際にのみガラスケース越しにかいまみるだけである。

周知のとおり、天然の顔料等を用いる絵画技法は、大陸より日本に伝来してきたと考えられているが、その製造技術と表現技術の両面を発展させ、繊細かつ豊富な色調を生み出し、独自の美的感性の表現として日本人が高度な領域にまで発達させてきた歴史がある。

日本が古来から継承してきた伝統的な絵画手法においては、岩石や鉱物、貝殻、植物繊維、松脂、動物の毛・皮脂など、日本の風土に適した自然環境において育まれた自然の恵みを実によく活かし、そして非常に優れた表現効果を生み出している。しかし、実際のところ、多くの一般の私たちは、美術史の知識として作品に対して言葉ではその名称を知っているが、その素晴らしさがどのような点にあるのか、次代の子どもたちに説明することがどれだけできるだろうか。

秋季展示

本展示のために作成したパネルは、今後は、館の催事である「特別講座（古典絵画講座）」のほか、鑑賞教育活動のための教材として活用していく予定である。

秋季展示チラシ

（制作準備の過程では、平成 24 年度　全国博物館学講座協議会　西日本部会の研究助成をうけ、調査研究活動の成果の一部と

して報告したことを付記する。）（原田）

催事名：講座開講三周年記念展　平成 25 年度　特別講座発表展示
期間：会期１　2014 年 3 月 20 日（木）～4 月 10 日（木）
　　会期２　2014 年 4 月 16 日（水）～4 月 20 日（日）
会場：民族資料博物館　多目的室、図書館１Ｆエントランス展示
　　春日井市役所　市民サロン
内容：一般対象の日本画制作実技の講座の作品発表展示。過去三年にわたり制作した作品もあわせて展示し、絹絵、板絵、日本画の三種類の作品を披露。モチーフは、花鳥風月から日常の連想風景まで多様。10 年以上制作活動を続ける受講生が多数ななか、各自の表現意欲を高く維持しつつ講師が柔軟に指導した成果がわかる。

展示制作担当：下川辰彦（日本美術院特待・講座指導講師）、原田
入館者数：517 名（一般、教職員、大学生）

この「特別講座（古典絵画）」は、当館が大学博物館として開館以来、初年度から開講している一般対象の絵画の実技制作講座である。伝統的な技術を要するものの一つ、絹、板を基底材にした絹絵、板絵の制作を主要なテーマにしつつ、今年度は、絹絵・板絵・日本画（紙本）を自由選択制にし、それぞれの基底材にともなう技術指導を、各自の進行に応じて指導講師が適切に指導をすすめていく内容とした。このため、同じ教室で制作しているあいだ、受講生は、基底材の異なる作品制作を行う仲間の制作状況も身近に勉強することができ、相互に触発しあう学習環境によって各自の作品に向かう意識がより向上するものとなった。また、胡粉や箔の取扱いをはじめ、伝統的な古典絵画の技術は、一度経験しただけでは会得できるものではなく、地道な継続活動と、一方では感性を新鮮に維持するという難しさをともなう。

特別講座発表展示チラシ

また今回の展示にあたっては、過去に制作した作品もあわせて一堂に展示することとした。三年にわたって行ってきた講座の活動につい

て、確実に進展してきているその成果がこの展示空間において一目で認識できると自負している。展示初日に行われた指導講師による作品講評から、なかには初めて絹絵を描く初心者もいたということだが、このように全員にわたって作品の仕上がりを一定のレベルにもっていく講師の指導力をあらためて実感した。なお講座開講三周年を記念して初めて、初めて春日井市役所市民サロンにおける発表も試みたことで、より多くの地域の皆様に見ていただく機会が増え、出品者とともに取り組むなかで励みとなった。今後の活動に対しても意欲的に計画していきたい。（原田）

特別講座発表展示（館内）

特別講座発表展示（館内）

特別講座発表展示（館内）

特別講座発表展示（市役所）

・講演

催事名：春季連続講演「海のシルクロード」

第一回「シルクロードとアフガニスタン　近くて遥かな国アフガニスタン」

講師：畑中幸子（中部大学名誉教授）

司会：和﨑　春日（中部大学民族資料博物館　館長）

日時：2013 年 5 月 15 日（水）15 時 30 分～

会場：中部大学リサーチセンター　大会議室

参加者数：65 名

畑中先生は著名な人類学者であるとともに、ニューギニアをはじめとするオセアニア地

域やアフガニスタンをはじめとするシルクロード地域、そして欧州のリトアニアまで幅広い地域の社会研究者でもある。そして、ご自身の研究テーマを実証するためには、寸暇を惜しむことなく、フィールドで資料収集する現役のフィールドワーカーなのである。

講演会開催の目的は、畑中先生の学問の系譜を伺うとともに、女性人類学者ならではの視点でシルクロード地域の暮らしを紹介していただくとともに、後に続く、われわれにも学問とは何か、あるいは民族資料博物館とは何かを示唆していただくことを狙いとした。

講演では、先生の研究とは何か、仕事とは何かについて、フィールドにおける NPO や NGO 活動と研究者の関わりを事例をあげつつ紹介された。次に、女性の視点から見た現地の「女子学生」を中心にアフガニスタンの首都カブールの生活や社会について紹介された。そして、最後に「文化財修復」にともなうわが国の文化支援のあり方まで言及されたのである。フィールドワーカーとしての生の情報や見識に接することで、改めて、畑中先生の知識や経験をすこしでも当館の展示や資料収集および博物館活動にいかしていきたいと思ったのである。

講演後の質疑応答では、先生の戦争体験を通して現代の日本の社会や若者に対する提言もいただき、改めてわれわれがどう社会や歴史と対峙するかを考えるよい機会ともなった。

講演会場は多くの参加者で熱気に溢れていた。この講演会を実施した成果は、将来、かならず民族資料博物館の展示や活動に生かされるであろう。（宇治谷）

春季講演第１回

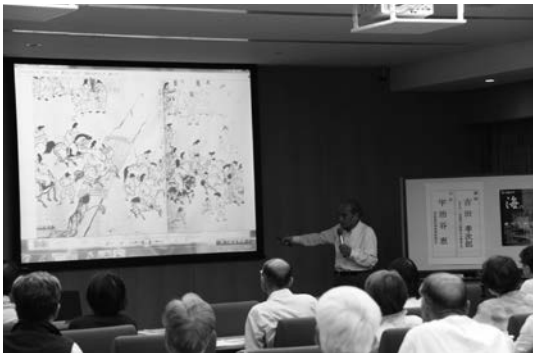
春季講演チラシ（表）

春季講演チラシ（裏）

催事名：春季連続講演「海のシルクロード」
　　第二回「祇園祭と海のシルクロード」
講師：吉田孝次郎（祇園山鉾連合会会長）
司会：宇治谷　恵（中部大学民族資料博物館　副館長）
日時：2013 年 6 月 5 日（水）15 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：42 名

祇園祭山鉾連合会理事長吉田孝次郎氏よって、民族資料博物館多目的室で公開されている企画展の関連事業として講演会が開催された。吉田孝次郎氏は京都・祇園祭山鉾連合会の理事長として祭の責任者をされているとともに、祇園祭研究だけでなく京都の町屋における歴史や文化についての第一人者の研究者でもある。吉田氏は、講演の最初で、自分は先生ではなく祭の一責任者であると紹介されたのである。そのように、祇園祭りの準備等でご多忙のなか、上記のようなテーマで様々な視点からのお話を聴くことができたことは本当に貴重な講演会であった。

お話の内容は、まず始めに、吉田氏のお住まいの京都・新町における町衆や商売人の力について、次に、「動く美術館」と呼ばれる山鉾の起源や歴史の紹介があった。特に、祇園御霊会の意味については、芸能、信仰、都市計画、悪霊退散など多様の視点での吉田氏のお話は改めて祇園祭がわが国の町衆文化の基層部分を形成しており、その影響はこの地方の名古屋や犬山の祭りにも関連していることに言及された。最後に、山鉾の主役である絨毯の文様や図柄からアラビア、トルコ、モンゴルなどの関連性を紹介することで、祇園祭がシルクロードを経由して遠く欧州から影響を受けていることに展開された。特に染織技法についての課題は興味深い内容であった。講演終了後には展示室に移動してギャラリートークも開催することができ、吉田氏のシルクロード研究に対する造詣や熱意を身近で感じることもできた。（宇治谷）


春季講演第 2 回

催事名：春季連続講演「海のシルクロード」
　　第三回「縄文時代からのファッション」
講師：小山修三（国立民族学博物館名誉教授）
日時：2013 年 8 月 3 日（土）14 時 00 分～
会場：文化フォーラム春日井　アトリューム
参加者数：130 名（春日井市制 70 周年記念事業との共同開催）

小山氏は縄文時代に関する研究やオーストラリア・アボリジニ研究の第一人者であり、特に、青森県の縄文遺跡「三内丸山遺跡」の発掘から保存・公開まで中心的存在であって、関連図書も多数執筆されている。前職の大阪・吹田市立博物館長時代には市民参加型の展示会を積極的におこない、これからの博物館のあり方について、新しいアイデアを提示するだけでなく、それを実現するために様々な活動をされることでも知られている。

講演会は、春日井市制 70 周年市民協業事業「古の技を現代に伝える~春日井の彩り」の一部として、春日井市の市民団体である「悠遊会」はじめ複数の関連団体との共催でおこなった。講演内容は、アメリカ北西海岸インデイアンやオーストラリア・アボリジニ、そして縄文時代における装飾品や土器の特徴や文様を紹介することで、女性のファションがどのように変容してきたを紹介された。特に、髪型や化粧の変遷をとしてみる、男女の機能分担や役割まで大きな話題を展開されることは、人類学や考古学の楽しみ方を考えるうえでも興味ある内容であった。講演後には、この講演内容をより立体的に展開するため、「縄文から近代」と称した「動く衣の変遷ショー」が市民や学生による参加で開催された。

講演会場はギャラリーを埋め尽くすほどの多くの参加者で熱気に溢れていた。このようなワークショツプ型の事業こそが、博物館でしか出来ない講演会ではないかと再認識させられた。

最後に、講演会及びショーを共催として関ることができたのも「悠遊会」の方々の日ごろの活動の賜物であり、改めて感謝するしだいである。

春季講演第３回

[特別講演の企画について]

この特別講演は、当館の春秋二季の連続講演とはテーマを別にして、秋季企画展示との関連テーマとして名のとおり特別に、二回連続の講演として企画した。二回の講演は、いずれも日本の伝統芸術に欠くことのできない素材である、金箔と胡粉をとりあげ、両者の製造に関して長い歴史を誇る老舗企業の協力を得ることがかない実現した。通常の春秋の

連続講演との違いは、講演のなかで映像のほかに、材料の「実物」を用いて説明・解説をいただく時間を設けた点である。参加した聴衆へは、実際に「素材」に触れる機会も導入することで、より身近に伝統文化を支える材料の特徴を実感することができ、参加者からは多くの好評の声を受けることができた。これは実際に製造に携わる企業のなかでも、とりわけ古来からの製造技術を守り育てるとともに、現代における発展した活用方法を積極的に調査研究されている努力によることがよく理解できた。技術の保持と発展という意味においても、「無形文化財」として通じる貴重な伝統文化の一つであると、一般のわたしたちも誇るべき「ものづくり」の遺産として再認識すべきであることがわかった。（原田）

催事名：特別講演「伝統文化を支える今日の材料」
　　第一回「箔の今日～伝統工芸と食文化」
講師：大平明子
実演講師：冨澤誠治（株式会社タジマ　主任）、補助：塩澤正昭（株式会社タジマ）

司会：下川　辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）
日時：2013 年 10 月 11 日（金）14 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：66 名（実演定員制限あり）

第一回目は「箔」について、大平氏による箔の歴史と材料の性質による分類について解説いただいたあと、金沢市の老舗企業「タジマ」の指導で、材料キットを用いて純金の金箔を使って実際にデザインし、塗りの皿上に貼るという実演を行った。手のひらほどの小さな皿ではあるが、その小空間にどのように装飾シールと箔を配置するか、という構想と、実際に吐息で飛んでしまう箔の驚くほどの軽量さと、はかなさを指先で実感し、それらを駆使し意図的に造形的に制作することの難しさ、そして箔を扱う職人技の素晴らしさをわずかでも実感できる入口となる機会となった。

特別講演第１回

特別講演チラシ

また、司会を務めていただい下川氏からは、日本における平安時代後期に隆盛した国風文化（別名では、浄土教美術）において、日本独自で発達した絵巻物や扇面図に金箔を用いて施された装飾表現の原点には、当時普及していった仏教の日本的解釈の特徴のあらわれであり、表現の源泉となる内的な精神面には「鎮魂の祈り」が根底にあるとお話いただいたことは、形とその意味との関係性を総合的に考察する重要性と、人々が共有する文化という遺産の意義があらためて教示されたのである。（原田）

催事名：特別講演「伝統文化を支える今日の材料」
　　第二回「現代日本画の胡粉と顔料について」
講師：中川　晴雄（ナカガワ胡粉絵具株式会社）
司会：下川　辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）
日時：2013 年 11 月 10 日（金）15 時 00 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：130 名

第二回目は、白色を表現する「胡粉」について、京都府宇治市の老舗企業「ナカガワ胡粉絵具株式会社」の中川氏により、原材料である貝殻（イタボガキ）を用いた製造の歴史や、顔料について海外の古文献からみる歴史や、日本のほか海外における材料の産地における特徴等について、映像のほか、胡粉や顔料の原材料となる貝殻や岩石、鉱物の実物を用いて解説いただいた。胡粉は、日本画のみでなく、人形や能面、建築など多くの伝統文化の彩色装飾に欠くことができない。中川氏は、宇治の平等院の建築装飾の保存事業においても携わっており、古来からの製造方法でなければ表現できない色合いが復元に重要である点も紹介された。また「素材」に焦点をあて、その観点から大陸伝来の技術を考察し、中国やヨーロッパにおける文献や産地の様子を比較することで、日本との交易や文化との関係性を再確認する講演の内容であった。この点は、シルクロード文化の交流史を通じた解説方法を考察したい当館にとっても、非常に参考になるものとなった。

講演の途中で、鉱物の原石を数種を回覧していただき、参加者は貴重な原石に直に触れることができた。聴衆のなかには、長年絵画を学ぶ一般の人々も複数おり、日本画における「群青」（ラピスラズリ・かつてルネサンス期は金とならび高価に交易に用いられた）の原石の重みを実感できたことに感銘を受けていた人もいた。講演では、中川氏は職人の育成と製造環境の把握と維持について、世代を越えて取り組まれて

特別講演第 2 回

きた実状にも触れられており、伝統文化を支えるとは、表現者や聴衆だけではなく、製造に携わる実に多くの人々の努力によるものでもあることをあらためて実感したのである。（原田）

催事名：秋季連続講演「フィールドワークの現場から　地域文化と民族資料」
　　第一回「韓国農村の民俗文化　1970 年代の映像で顧みる」
講師：伊藤　亜人（東京大学名誉教授）
司会：宇治谷　恵（中部大学民族資料博物館　副館長）
日時：2013 年 12 月 2 日（月）15 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：26 名

講演に先立ち、本学名誉教授の畑中幸子先生から、伊藤先生との大学研究室時代からのご関係にもとづく先生の人柄紹介と韓国研究の意義や困難さについての紹介があった。

畑中先生からの紹介でもあったが、伊藤先生は、長年、韓国や朝鮮半島の人類学研究を継続し、さらに発展されており、その功績により 2002 年には、韓国政府から、日本人で初めて「大韓民国勲章」を受けられた。

その功績からも、伊藤先生は、日韓両国から高い評価を得ている韓国研究の第一人者である。

また、当博物館の展示場には、伊藤先生が収集された民族資料が展示されており、当博物館にとってもお世話になった研究者である。そのこともあり、民族資料収集とは何か、あるいは「現場」におけるフィールドワーク調査とは何かを教示していただくことを講演の狙いとした。

講演では、先生の調査や研究について、漢字文化、儒教思想、民族主義、そして「複雑社会」という全体構造の視点からみた韓国文化への着眼が紹介された。

具体的な事例として、韓国・珍島における農村社会や民族文化を 1970 年代からの映像を活用しながら生産から暮らし、そして葬送儀礼まで幅広い文化や社会の変遷や変容につい

秋季講演　チラシ

秋季講演第 1 回

て紹介と解説があった。伊藤先生が自ら「現場」で収集された資料や情報は「複雑社会」である韓国文化を考えるうえで貴重な報告であると認識する同時に、フィールドワーク調査の重要性を改めて再確認したのであった。

先生の熱弁は時の経過を忘れるものであり、予定終了時間を越えても、多くの参加者は席をたたなかったのである。（宇治谷）

催事名：秋季連続講演「フィールドワークの現場から　地域文化と民族資料」
　　第二回「パプアニューギニアの伝統と現在」
講師：豊田　由貴夫（立教大学教授）
司会：宇治谷　恵（中部大学民族資料博物館　副館長）
日時：2013 年 12 月 13 日（金）15 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：21 名

豊田先生は、パプアニューギニアをはじめとする太平洋地域研究の人類学者であり、現場にもとづいたフィールドワーカーでもある。
特に、パプアニューギニア研究においては、畑中幸子先生の業績を継承し、さらに発展させられている。

講演内容は、パプアニューギニアに暮らす約 800 にもなる民族（部族）の特徴を言語等の違いをとおして紹介された。
特にピジン語またはピジン英語と呼ばれる言語がどのような過程で派生し、変遷してきたか。その言語が現代の生活や都市案内の表示など、多様な内容に使われていることなど興味ある内容であった。次に、パプアニューギニア・セピック川・流域の村々の人々の暮らしや宗教について、サゴヤシ・ヤムイモなどの食文化、儀礼や聖霊などの信仰及び観光との関連などを紹介された。最後に国民国家としてパプアニューギニアの現代的課題についての指摘は、これからの日本がどのようにこの地域と関係を進めるかを考えるうえで貴重なお話であった。

講演終了後には、参加者からも熱意ある質問や意見があり、今後の研究を継承・発展させるうえでも有意義な講演会となった。（宇治谷）

秋季講演第 2 回

・講座

催事名：特別講座「古典絵画講座」

期間：講座１　2013 年 5 月 15 日～7 月 30 日　計 12 回　（16 名）定員制

　　講座２　2013 年 10 月 2 日～2 月 12 日　計 12 回　（15 名）定員制

講師：下川　辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）

担当：原田

［講座１］

5 月 15 日から毎週水曜日、約半年間にわたる日本画の実技制作の一般対象の講座が今年も始まった。開館初年度から 3 年目、これまで絹絵、板絵の制作を通じて古典絵画を学ぶ内容だったところに、今年は新たに日本画作品の制作も含めることになり、一つの講座のなかで、受講生が、基底材の違う表現方法の絵画作品を自由に選択して制作できるようにした。指導講師は従来と同じく日本美術院の下川先生にお願いしているが、講師は受講生各自の使用材料や進度に応じて対応していただくため、特に定員を限定してきめ細かい指導が行き届くように考えた。

特別講座１　制作風景

[講座２]

春学期にひきつづき、古典絵画を学ぶ実技講座の秋学期編が始まった。できるだけゆきとどいた指導を前提にしたいという点で定員制とし、今回も人数を大幅に増やさないこととした。受講生のなかには、春学期から継続して制作に取り組む人もいる。各自の経験年数等に応じて、それぞれの制作進行があることから、指導講師は一人ひとりの状況を見極めて必要な提言を行う。その様子は、下地作りや構成の段階から線描や彩色まで、さまざまに応用した方法を実際に画面上で示すもので、受講生らはメモによる記録と、知覚の五感すべてによる記憶をフル活動させる充実した時間を過ごしている。今期は年間通して複数枚の作品制作を行う受講生もおり、年度末から年度始めに予定している展示発表も期待したい。（原田）

特別講座２　制作風景

【H25 年度　特別講座「古典絵画講座」中部大学民族資料博物館アンケート　集計結果】

アンケート回収　15 件／　15 名　回収率 100%　（以下ゴシック体が回答内容）

このたびは、当館の特別講座を受講いただきまして誠にありがとうございました。
皆様の声を今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。

１　講座全体について感想をおきかせください。

①　大変関心を深めた　　②普通　　③あまり関心が持てなかった

①　　15　名
②　　０　名
③　　０　名

２　講座の内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。

・技法がたくさんあるので、（各自）その場に応じた実技や説明があり良かった。
・たくさんありました。盛り上げる方法で描く方法とか、マチエールの作り方とか、いろいろありました。
・何もかも自由だったので選ぶのにとまどい、他の人の絵が良く見えて困りました。
毎回すばらしいご指導をいただき感謝しております。
・受講者各自の技量に応じた指導。
・日本画独特の画材について再認識した。
・岩絵の具　胡粉　等　膠との関係　又　墨と絹絵等　製作面
・胡粉活用、その他、他の方達が色々な手法で描いているのでとても興味深く参考になった。
・胡粉や絵の具の溶き方
膠が薄いと絵の具が動いてしまう。
・日本画独特の材料の特徴や扱い方等。
・日本画の奥深さ、技術、ものの見方、表現の方法。
・日本画の材料全般やそれらの特色や扱い方を知ることができ勉強になりました。
・基本が一番大切。
・胡粉を使った描き方、金泥の溶き方が大変勉強になりました。
・彩色。

3　講師の指導について、いかがでしたか。

①　満足した　　②普通　　③いまひとつ

④　15 名
⑤　0 名
⑥　0 名

4　講師のどのような指導が良いと思われましたか。

・くわしくていねいに説明、実例を上げて解りやすかった。
・熱心に生徒さんに応じて細かく指導して下さる点です。
下川先生以上に情熱を持って教えて下さる先生を私は知りません。
・それぞれの個性に合った絵を作り上げて下さる事。
・熱心な指導。
・該博な知識と卓越した技量で指導されます。
・各自の考え思いを展開してアドバイスして下さるところ。
・すべて。
・細かい様々な技法、考えを教えて下さる。
・花の色を塗る時花びら1枚づつ塗っていたのですが花全体を見て塗るという事を教えてもらいました。
色の重ねて深みのある事も
・個々の作品の状態に応じた描き方の説明が勉強になりました。
・おしみなく技術を指導して下さること。※吸収しきれない・・・
・多彩な表現方法があり、その都度丁寧に教えて頂きました。
・他では教えて頂けない細かな指導。
・困った時失敗した時も必ず実際に絵筆を取って救済していただけること。
・個々に応じた指導。

5　具体的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

・特別にはありません。よくやって頂いています。
・特にありません。
・別にありません。充分でした。
・特にありません。
・教材持ち込みの多いところ、駐車場からの距離。

・ない。
・絵を描く場所がもっと広いこと
駐車場が会場に近い方が（だんだん荷物が多くなってくるので　雨の日など・・・）
・特に問題ありません。
・行き届いた連絡事項を頂き助かります。
・特にナシ。

6　今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

① 受講する　　②わからない　　③受講しない

①　　14 名
②　　 1 名
③　　 0 名

7　今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。

・同じような内容でいいです。
・やはり大きさ、テーマを決めて教えていただく方が先生もよろしいのではないかと思います。
・「古典絵画講座」を継続して開講して下さい。
・特に今のところありません。
・日本画の素晴しさ、繊細さが少し分ってきた所です。
なかなか前に進めませんがもう何回か続けていただけたらと思います。
今の段階で終わってしまいますと途切れてしまいますのでよろしくお願いします。
先生や皆様には大変お世話になり感謝です。
・機会がありましたらぜひ参加したいと思います。模写でも制作でも。よろしくお願いします。
・さらにこの講座を続けて頂きたいと思います。

～ご協力ありがとうございました。

出版事業

・中部大学民族資料博物館「2013 年度　年次報告　第 3 号」（6 月）

・中部大学民族資料博物館「2013　主要企画展示記録」（5 月）

・中部大学民族資料博物館「2013　連続講演記録」（5 月）

・中部大学民族資料博物館 2013　秋季企画展示図録（調査・研究報告）
　　「素材研究展示　古典と現代の比較　顔料と染料における日本画の新たな表現」

・中部大学民族資料博物館「ニュースレター　5 号」（10 月）

・中部大学民族資料博物館「ニュースレター　6 号」（2014 年 5 月）

・中部大学民族資料博物館「H26 年度　開館日カレンダー」（2014 年 1 月）

・中部大学民族資料博物館「平成 24 年度・平成 25 年度　合併号　調査研究報告　第 2 号」（2014 年 3 月）

・「中部大学民族資料博物館企画　三周年記念展　平成 25 年度　特別講座受講生発表展示制作記録」（2014 年 3 月）

資料収集・保存等

寄贈資料の受入から館内報告、および学園報告の内規と手続きのための書類様式を定めた（11 月起案決裁）。
それにもとづき、次の平成 25 年度分の受入資料について学園へ報告した。

寄贈資料
計 2 点
内訳：
・南アジア関連資料　1 点（個人）
・南アジア関連資料　1 組（2 点）（個人）

この他に、平成 22 年度　博物館の準備室発足以前についての寄贈記録が行われていないことをうけて、寄贈資料に関してあらためて再確認（想定）を行い、平成 25 年度までに受け入れたと想定される資料の評価記録を実施。館内報告後にあわせて学園へ報告した（3 月）。

資料修復・資料保存等
資料修復については、次の資料について主に破損部の補修を行い、現在継続中である。
・オセアニア地域資料の仮面（頭部の貝の装飾を充填、ひびの接着等）

資料保存環境については、虫害および有害ガス検知検査を実施した（5 月）。また 2012 年冬季より開始した温湿度計測データの経過分析をまとめた（6 月）。
これらの経過報告をもとに、愛知県美術館保存専門研究者の視察指導を受けた（7 月）。主に、新規受入資料の作業環境、常設展示の温湿度、照明、虫害環境に対する対応について指導を受けた。常設展示の温湿度の変化については応急的に対応しなければならないほどの危機的環境ではないことはわかったが、虫害の対策については日頃からの観察等の必要性を学んだ。
その他、九州国立博物館にて開催された文化財虫菌害研究所主催の IPM コーディネーター研修に参加した（12 月）。資格試験を受験し、合格した（平成 26 年 1 月 16 日付　合格証受理）。
12 月の研修を受けた成果を現場で活かすために、第二次虫害調査の前に IPM 活動を館内の常設展示空間の清掃方法を計画しスタッフとともに実施（3 月）。実施結果を整理し、今後の管理体制に活用する。

調査研究事業
＜宇治谷　恵＞

（調査研究活動）
「海のシルクロードと絨毯」展における、染色及び素材等の資料調査及び研究活動。
期日：平成 23 年上半期
場所：奈良平城京蹟資料館、宇治市源氏物語ミュージアム、神戸絨毯ミュージアム等
その他：この調査活動の一部は全国大学博物館学講座協議会研究助成により行い、その成果は展示に利用するとともに、調査内容の概要は本年報に記載した。

（講師）

催事名：博学連携教員研修ワークショップ 2013 in みんぱく
「学校と博物館でつくる国際理解教育―センセイもつくる・あそぶ・おどる・たのしむ」
主催者名：国立民族学博物館・日本国際理解教育学会
開催日：2013 年 8 月 6 日（火）
場所　：国立民族学博物館（講師全 19 名：博物館、大学、学校関係者等による）
対象　：約 130 名（学校等の教員、学芸員等）
内容　：文化人類学及び博物館学等の成果を活用した実践事例の紹介及びワークショップ形式での体験学習。学校の教員がどのように博物館を活用できるかを教員、学芸員、大学研究者等が互いに学び会うことで、その課題や問題を考える。

講義名：博物館経営論（前期、金曜日　受講者約 30 名）中部大学
博物館資料保存論（後期、火曜日　受講者約 30 名）中部大学
博物館情報・メディア論（後期、木曜日　受講者約 30 名）中部大学

＜原田　千夏子＞

（調査研究活動）
「絵画資料における実験的作品制作を通じた「素材」及び「技法」に関する比較文化研究～中国敦煌と日本画の作品表現、特に岩絵具「敦煌黄土」と「くされ胡粉」について」
（全国大学博物館学講座協議会西日本部会　平成 24 年度研究助成）

内容：平成 24 年度から 25 年度前期にかけて、日本画の顔料と染料の特質について京都府および石川県の製造元を訪れ古法の技術保存に関する聞き取り調査を実施し、さらに調査内容を視覚的教材資料とするため、日本画家と共同研究により重ね塗りの表現効果を比較できる色別の標本を実験考証を重ね制作。最終的に 10 枚のパネルを制作した。研究成果は、2014 年の当館の秋季企画展示において発表し、常設の絵画作品について新たに素材の観点から検証し解説を付記し公開した。実験成果については、秋季企画展示図録・調査報告（10 月発行）において発表するとともに、全国大学博物館学講座協議会西日本部会研究助成報告に添付し提出した。

（企画・制作・展示）

催事名：夏季常設コレクション展示「仮面と物語」
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：7 月 9 日～8 月 6 日
場所：中部大学民族資料博物館　常設展示内
内容：企画、各種解説資料作成、展示

催事名：秋季企画展示「素材研究展示　古典と現代の比較　顔料と染料における日本画の新たな表現」
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：10 月 8 日～12 月 18 日
場所：中部大学民族資料博物館　多目的室、および 1 F エントランス展示
内容：企画、展示資料制作、解説作成、図録制作執筆、展示

催事名：冬季企画展示「講座開講三周年記念展　平成 25 年度　特別講座受講生発表展示」
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：会期 1　3 月 20 日～平成 16 年 4 月 10 日、会期 2　平成 26 年 4 月 16 日～20 日
場所：会期 1　中部大学民族資料博物館　多目的室、および 1 F エントランス展示
会期 2　春日井市役所　市民サロン
内容：企画、記録、工程記録作成、展示

（研修）

研修名：平成 25 年度第 3 回文化財 IPM コーディネータ研修会
主催者名：公益財団法人文化財虫菌害研究所
期間：12 月 18～20 日
（最終日：平成 25 年度第 3 回文化財 IPM コーディネータ資格取得試験受験 合格）
場所：九州国立博物館

研修名：平成 25 年度　愛知県博物館協会　調査・研究部門研修会
「寄託・寄贈品の受入について」
主催者名：愛知県博物館協会
日時：平成 26 年 2 月 25 日
場所：徳川美術館

教育普及に関する活動

授業における利用

5 月 21、28、30 日　　スタートアップセミナー（国際関係学部）

6 月 21 日　模擬施設紹介映像制作のための館内撮影演習（人文学部学生）

10 月 14 日　博物館学

11 月 14 日　国際文化学科授業

生涯学習の企画実践

5 月～　　特別講座 1（古典絵画）の開講　（一般有料・定員制 16 名・連続 12 回）

10 月～　　特別講座 2（古典絵画）の開講　（一般有料・定員制 15 名・連続 12 回）

3 月～4 月　特別講座受講生発表展示（民族資料博物館／春日井市役所　市民サロン）

その他の教育普及活動

8月4日　　あつまれ！わんぱく隊　夏季催事会場(学生企画による児童対象鑑賞体験見学)

8 月 29 日　チャレンジド　チルドレン鑑賞体験見学

10 月 28 日　春日丘高校（国際）と国際関係学部　連携授業実施

11 月 14 日　県立春日井西高校と国際関係学部　連携授業実施

12 月 13 日　長久手市生涯学習講座「お散歩カメラクラブ」会場（展示資料利用）

12 月 17 日　春日井市立北城小学校 6 年生グループ　国際文化学科指導鑑賞体験見学会場（スケッチ制作）

3 月　3 日　北名古屋市市民講座グループ見学

2013 年 12 月に開催した、春日井市立北城小学校 6 年生児童を対象とする民族資料博物館でのワークショップ「学芸員のお仕事体験」をテーマに、生徒が作成した館所蔵民族資料のスケッチ画展示を行った。

この展覧会は、国際関係学部が選定された文部科学省平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」取組「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」の一環として実施したものである。

小学生見学

児童がスケッチの対象に選んだ作品はさまざまだったが、その中からパプアニューギニアの祖霊像、エジプトの水煙草などを描いた作品が優秀作に選ばれた。

作品のオリジナルな色使いにとらわれず、自

由に色をつけたり、またその用途についても独自の解釈を施したりと、発想の豊かさにも感銘を受けた。

博物館資料の活用
学外出品
11 月 30 日　於 宗次ホール（名古屋市中区）ロビー展示
「茶馬古道に住まう人々の暮らし　～旅に生きる美と英知」
※演奏会「西南シルクロード　茶馬古道が語る音楽の旅」に関する資料　計 29 点

その他
4 月 24 日、5 月 1 日、5 月 8 日　国際関係学部セミナー開催協力
6 月 4 日　テレビ愛知撮影会場（国際関係学部紹介・7 月 17 日放映）
8 月　オープンキャンパス開催期間に国際文化学科へ民族衣装の貸出　3 点

催事名：「あつまれ！わんぱく隊　夏季催事（博物館見学・体験学習）」
日時：2013 年 8 月 4 日（日）午後
会場：民族資料博物館常設展示スペース
担当：采睪真澄（幼児教育学科准教授・現代教育学部フレンドシップ活動）
三品陽平（幼児教育学科助手）

去る 8 月 4 日、夏らしい暑い日に、第 4 回フレンドシップ「あつまれ わんぱく隊」が開催され、約 90 名の学生と、地域の子どもたち 66 名がキャンパス内で元気に活動した。第 4 回活動の主となる企画は民俗資料博物館の見学と体験。学生たちは子どもたちに「世界には様々な国に様々な歴史と文化があって、その文化を直接見て、触れて、感じることで世界に興味を持ってほしい」との願いの基にこの企画を準備してきた。そして当日、現代教育学部 70 号館の前で、手作りの衣装を纏って海賊に扮し、迫真の演技と音楽で子ども達を仲間に誘い入れる。しかしそのためには、もっと世界をみんなに知ってもらいたいと語りかけ、世界の文化を見に民俗資料館へという導入を行った。民俗資料博物館では、世界の国・地域ごとに博物館からお借りした衣装を纏った担当学生が子ども達を出迎え、貴重な資料を子どもたちに紹介すると共に、自分で調べたその国の挨拶や歴史、文化などを分かりやすく子どもたちに話していた。一方子ども達は、珍しい楽器や衣装、生活用品を前に驚きや喜びを子どもらしく実に素直に表情に現わし、正に興味津々という様子であった。他では中々見ることも、まして触れることもできない貴重な民俗資料博物館の収蔵物を真直に感じられたことは、きっと子ども達の貴重な生活経験となり、彼らの「人」を育む上で確かな糧になったと感じる。また、こうしたことをきっかけに、学生たちが異国の文化について自ら調べ、体感したことで、学生自身が多くのことを学んだことも、保育士・教

員養成という意味では実に大きかったと感じている。実際学生の一人からは、「この企画をするまで民俗資料博物館の面白さが今一つ分からなかったが、今回自分で調べてから改めて見てみると、資料の背景にある色々なことが見えて面白かった。」という声が聞かれた。これこそが「本物」を収集・展示している博物館の魅力であり、それを学生と子ども達が共に学び合った今回の企画は実に有意義なものであった。（采睪）

わんぱく隊　見学風景

催事名：国際関係学部オープンキャンパス分会場
「仮面を通してみる世界、仮面を通してみる私―世界各国の仮面と民族衣装を試着して、携帯で写真撮影しよう！―」
日時：2013 年 7 月 6 日（土）、8 月 4 日（日）～6 日（火）
会場：民族資料博物館常設展示室内体験コーナー
担当：伊藤裕子（国際文化学科准教授）

仮面とは何であろう。身体の内の顔だけ、身体を部分的に覆うことによって、身体全体が、またはその存在そのものが「変身する」といった小道具であり、民間伝承、民話、演劇、カーニヴァル、儀式、はたまた仮装舞踏会などの社交や子供のおもちゃにいたるまで、様々な場面で登場する。変身は、通常の秩序の世界に対抗して、無秩序、混沌をもたらしうる祝祭空間や逆さま世界をもたらす。そうした混沌のプロセスを経て、仮面を取り除いた後の現実世界は、さらに再生へと向かう。

国際関係学部の 7 月、8 月のオープン・キャンパスでは、中部大学民俗資料博物館の協力を得て、仮面展を分会場とし、訪れた高校生方に、仮面や民族衣装を実際に試着してもらい、民族楽器を奏でて、各民族に成りすました気分と、民族特有の音楽的雰囲気を味わってもらった。本民族資料博物館の最大の特色は、民族的工芸品や資料の多くが、ガラス張りのケースに収納されることなく、実際に触れることができることだ。高校生に、これほどまで身近に、世界各国の文物を感じられる機会を提供できる本博物館は、館内空間に訪れた者たちを、ある種の「祝祭空間」へと参入させるのだ。

夏のオープンキャンパスにおける
国際文化学科の学生スタッフ

高校生たちが仮面を被ったところを、また民族衣装を試着したところを、友達が見たら、どう感じたであろう。彼らはすでに、日常の現実

世界から離れ、他文化の主体となりすまし、周囲を驚かせるほどの、非現実性をおどけながらも演じているのだ。携帯で撮ってもらった写真を見て、化けた本人も、仮面や民族衣装を被った自分とは何か、制服などとはどう違うのか、自らに問うてもらいたい。こうした疑似他文化体験が、高校生たちにとって、本博物館を後にして現実世界に戻った時、他文化に対する理解を深め、日頃の生活を “regenerate” (再生・刷新する)する契機となることを願う。

博物館職員の方々には、様々なご協力をいただき、厚くお礼を申し上げたい。(伊藤)

催事名：「チャレンジドチルドレンのための小さな冒険プログラム 2013」
日時：2013 年 8 月 29 日（金）
会場：民族資料博物館　常設展示内特設コーナー（夏季企画常設コレクション展)、
　　多目的室
担当：中路純子（作業療法学科准教授）

中部大学におけるこの活動も、今回で３年目を迎えた。地域の小・中学校に在籍している発達障害のある子ども達が、社会生活を送るために必要なスキルを学ぶための一つの経験の場として、大学を利用している。

大学が地域の資源として地域住民に何らかの利益を提供し、学生の教育にも役に立つ活動の奨励は、文部科学省も行っており、中部大学も COC(Center of community)として力を入れていることである。

このプログラムに、昨年同様、民族資料博物館を冒険メニューの一つとして利用させていただいた。昨年は思春期まっただ中の中・高生が中心であったが、今年は、小学生の主に低学年の子どもたちを対象とした。昨年利用したときは、実際に触れることのできる体験が子どもたちにも好評であったので、今年もそれに重点を置いた。作業療法学科の学生たちも学内の民族資料博物館に足を運ぶ事は日常ではなく、衣装の纏い方や楽器の触り方などの知識がないので、子どもたちにしっかりと伝えることが出来るように、民俗資料館の利用準備班を作り、事前に使いたい衣装や楽器などを選び、纏い方・扱い方を教えていただくことで準備を行った。実際の体験の場でどれだけの知識が子どもたちに伝わったのかは定かではないが、楽しい時間を過ごしたことには違いがない。

発達障害のある子ども達の最も課題となることは、人と同じ体験を共有することである。自分の思いを人に伝えることや人の思いを受け取ることが苦手である。見たことはあるけど着たことのない民族衣装や、全く初めての衣装を身に纏う事は、何らかの情動を揺り動かす経験である。それを他者に向かって発信したり、同じような歓喜の声を出す友達を見たりして同様の興奮を感じ取ることは、非常に貴重な時間であったと思う。

来年以降もこのプログラムは続ける予定である。子どもたちが良い時間を過ごせるように私も努力を重ねたい。(中路)

渉外

大学行事への参加

4 月 20 日	春のオープンキャンパス開催日特別開館
7 月 6 日	夏のオープンキャンパス（国際関係学部）開催期間特別開館
8 月 4～6 日	夏のオープンキャンパス開催期間特別開館
9 月 4～6 日	日本会計研究学会　第 72 回　開催期間特別開館
10 月 19 日	秋のオープンキャンパス開催期間特別開館
11 月 9～10 日	「父母との集い」開催日特別開館

広報活動

取材

7 月 25 日　中日新聞くらしのニュース
「常設コレクションミニ展示　仮面と物語　中部大学民族資料博物館で」
（夏季企画展示の紹介記事）

7 月 25 日　中日新聞くらしのニュース「縄文時代からのファッション」展示と変遷ショー
（8 月連携催事の紹介記事）

2 月 25 日　中日新聞「いまドキッ！大学生」シリーズ「大学博物館が面白い！
（触れる　奏でる　楽しめる　一般にも無料公開」
（東海圏の大学博物館をもつ施設の紹介記事）

大学広報等

「中部大学　2014　大学案内」民族資料博物館

「CHUBU UNIVERSITY COMPUS LIFE 2013」民族資料博物館

「学校法人　中部大学　学園報」第 472 号　2013（平成 25）4.20
（「平成 24 年度特別講座　古典絵画（絹絵・板絵）受講生作品展」開催記録

「中部大学広報誌　ANTENNA 」No.115　2013.4
（「民族資料博物館を他分野交流の十字路に」民族資料博物館長　教授　和﨑春日

「学校法人　中部大学　学園報」第 474 号　2013（平成 25）6.20
（「2013 年度　第 3、4、5 回　国際関係学部セミナー」）協力行事開催記録
（「民族資料博物館 2013 春季連続講演第 1 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 475 号　2013（平成 25）7.20
（「民族資料博物館 2013 春季連続講演第 2 回」開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 476 号　2013（平成 25）9.20
（「民族資料博物館 2013 春季展示　海のシルクロードと手織り絨毯展」開催記録
（「2013 夏季常設コレクションミニ展示　仮面と物語」）開催記録

（「民族資料博物館 2013 春季連続講演第 3 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 478 号　2013（平成 25）11.20
（「2013 民族資料博物館特別講演第 1 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 479 号　2013（平成 25）12.20
（「「2013 民族資料博物館特別講演第 2 回」」開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 480 号　2014（平成 26）1.20
（「民族資料博物館 2013 秋季展示　素材研究展示～古典と現代の比較～顔料と染料における新たな日本画の表現」開催記録
（「民族資料博物館 2013 秋季連続講演第 1 回」）開催記録
（「民族資料博物館 2013 秋季連続講演第 2 回」）開催記録

「信頼」vol.59　中部大学後援会会報　2013
（「特集　中部大学白書 2013　キャンパスで見つけた中部大学スピリッツ」内の施設紹介
（施設利用＆イベント開催のご案内）内の施設紹介

その他（学外の催事案内）

「おでかけガイド　愛知の博物館」2013.04～2014.09　（愛知県博物館協会）
「おでかけガイド　愛知の博物館」2013.10～2014.03　（愛知県博物館協会）

H25年度　中部大学民族資料博物館　展示・催事一覧

期間	名称	料金	参加者数	内容	主催／共催	備考
◇講演						
5／15（水）	春季連続講演第1回「近くて遥かな国　アフガニスタン」	無料	65	畑中幸子（中部大学名誉教授）文化人類学	主催	
6／5（水）	春季連続講演第2回「祇園祭と海のシルクロード」	無料	42	吉田孝次郎（祇園山鉾連合会　会長）文化交流史	主催	
8／3（土）	春季連続講演第3回「縄文時代からのファッション」	無料	130	小山修三（国立民族学博物館）民族学	共催	外部会場・市制事業協力
10／11（金）	特別講演第1回「箔の今日～伝統工芸と食文化」	※	66	大平明子　材料研究	主催	※実演対象者は材料費一部負担。実演ありのため入場制限
11／8（金）	特別講演第2回「現代日本画の胡粉と顔料について」	無料	130	中川晴雄（ナカガワ胡粉絵具株式会社代表取締役）材料研究・比較文化	主催	
12／2（月）	秋季連続講演第1回「韓国農村の民俗文化　1970年代の映像で顧みる」	無料	26	伊藤亜人（東京大学名誉教授）文化人類学	主催	
12／13（金）	秋季連続講演第2回「パプアニューギニアの伝統と現在」	無料	21	豊田由貴夫（立教大学教授）文化人類学	主催	
◇常設展示　テーマ展						
7／9（火）～8／6（火）	夏季常設コレクション展示「仮面と物語」	無料	861	展示と仮面解説、民話、図、年表	主催	
◇企画展示　（多目的室）						
5／29（水）～8／1（木）	春季展示「海のシルクロードと手織り絨毯展」	無料	1,599	赤穂段通の資料と歴史解説（展示内容：外部借用）	主催	企画デザイン制作：外部
10／8（火）～12／18（水）	秋季展示「素材研究展示　古典と現代の比較 顔料と染料における日本画の新たな表現」	無料	1,874	顔料と染料の重ね塗りの表現効果を天然材と現代材と比較するパネルを制作展示し検証。シルクロード室展示作品の素材面からの解説パネル作成。	主催	
3／20（木）～4／10（木）	講座開講三周年記念「特別講座受講生発表展示」	無料	217	一般対象日本画実技講座成果	主催	
4／16（水）～4／20（日）	講座開講三周年記念「特別講座受講生発表展示」於 春日井市役所市民サロン	無料	300	一般対象日本画実技講座成果	主催	外部会場出展
◇ギャラリートーク						
（2014）3／20（木）	講評会（特別講座受講生発表展示内）	無料	20	指導講師による作品講評	主催	
◇常設展示活動利用						
8／4（日）	あつまれ！わんぱく隊　夏季催事		168	地域幼児児童、学生、教員	協力	主催：教育フレンドシップ活動
8／4（日）～8／6（火）	国際文化学科オープンキャンパス会場「民族衣装と楽器体験」	無料	30	高校生体験と学科紹介	協力	主催：国際文化学科
8／29（木）	チャレンジドチルドレンのための小さな冒険プログラム2013		54	大学生と地域の児童、父兄、教員	協力	主催：作業療法学科教員学生
10／28（火）	地域高校の連携授業の実施（国際関係学部）		30	鑑賞授業		主催：国際関係学部
11／14（金）	地域高校の連携授業の実施（国際関係学部）		70	鑑賞授業		主催：国際関係学部
12／13（金）	長久手市生涯学習講座「お散歩カメラ塾」		6	撮影講座		主催：長久手市生涯学習課
12／17（木）	地域小学校の見学とスケッチ記録		45	鑑賞見学等	協力	主催：COC（国際関係学部）
2／20（木）～3／15（土）	博物館へ行こう！地域小学生による展示資料スケッチ展	無料	511	鑑賞見学時の制作作品	協力	主催：COC（国際関係学部）
◇実技講座、ワークショップその他						
5／15（水）～7／31（水）	特別講座1（古典絵画）連続12回　定員制	有料	16	実技制作、材料研究・美術史	主催	
10／2（水）～2／12（水）	特別講座2（古典絵画）連続12回　定員制	有料	15	実技制作、材料研究・美術史	主催	
催事別 小計 6,296						

中部大学民族資料博物館年報 第３号　2013

平成 26 年 6 月 30 日印刷
平成 26 年 6 月 30 日発行

編集・発行　中部大学民族資料博物館
〒 487-8501
愛知県春日井市松本町 1200 番地（附属三浦記念図書館 2 階）
ＴＥＬ　0568-51-9193（直通）
ＦＡＸ　0568-51-9194
印　　刷　不二印刷工業株式会社